

語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心(上巻)

収録証言・手記

ヒロシマ編

- 1 小野 忠熙 日赤勤務の妹はガラスの破片が刺さった身体で看護にあたっていた
- 2 永原 誠 15年戦争の果てに父、母、二人の妹を奪った原子爆弾
- 3 小高美代子 胎内のわが子と共に被爆
- 澤井美千代 私たちを最後の被爆者に
- 4 高橋 正清 おやじを探し求めて歩き回った広島街
- 李 正道 被爆と貧しさと民族差別を乗り越えて
- 5 佐々本秋雄 私と姉と兄、原爆と枕崎台風と二重の惨禍の中で
- 6 伊藤 恒美(仮名) じわじわと体を蝕まれてきた私の被爆体験
- 7 玉置 孝子 68年目の被爆者手帳
- 8 熊谷 好枝 家の前の街道を埋め尽くす被災者を救護して
- 9 濱 恭子 大阪空襲と広島被爆 二度の死線を越えて
- 10 鳥羽 洋子(被爆二世) 被爆二世として体験をどう語り継ぐか
- 11 穂谷珠美子 当時7歳、親きょうだい一家六人が被爆
- 12 森川 孝子(仮名) 母、弟、子どもたちのために生き抜いてきた
- 13 鹽谷 浩 学童疎開の空に見た原子雲
- 14 木村 民子 被爆者救済を願って闘った原爆症認定訴訟
- 15 花垣 ルミ 58年目にたどり着いた、被爆者として生きる意味
- 16 大坪 郁子 私の戦争体験、夫の被爆体験
- 17 折場 六三 学徒動員先の広島駅貨物操車場で被爆
- 18 小迫 笑子 夫の原爆症裁判を支えて
- 19 吉田 廣子 13歳の兄の背に負われて父を探し求めた地獄の街
- 20 幸田 幸典 70年前のあの日を生き抜き今日あることに感謝
- 21 平 信行(被爆二世) 父と母の被爆体験と私の追体験
- 22 太田 利子(仮名) 呉海軍病院への学徒動員で被爆者救護活動
- 23 芦田 晃 被爆者として語り継がねばならぬ原発事故と放射能
- 24 小川 隆(仮名) 路面電車の中で浴びた閃光
- 25 丹羽 万枝 火に追われて鉄橋を渡って逃げた6歳の記憶

ナガサキ編

- 1 中野士乃武 燃え尽くす長崎の地獄絵の中を縦断して帰り着いた私の被爆体験
- 2 川越 潔子 家族8人全員のいのちとからだを傷つけた原子爆弾
- 3 森 美子 看護婦として召集された大村海軍病院で被爆者救護に従事して被爆
- 4 白石 辰馬 海軍衛生兵として39日間 長崎の被爆者を救護
- 5 小笠原長四郎 核爆弾、被爆体験記
- 6 柴田 幸枝 闘病の日々とノーマア・ヒバクシャ訴訟
- 7 真村 信明(仮名) 被爆のことを語れるようになった今
- 8 藤田 晴子 「ふりそでの少女」とともに
- 9 寺山 忠好 こぎゃんことがあつてよかとか
- 10 寺山 妙子 夫忠好と歩んだ日
- 11 原野 宣弘 原爆の惨禍、生きてきた証、そして平和の願いを絵に託す
- 12 木之下 登 犠牲になった級友たちに代わって語り続ける
- 13 吉田 妙子(被爆二世) 木之下さんのこと
- 14 谷口 チリ 長崎で被爆して、今思うこと
- 15 眞柳タケ子 洋輔の声におされて語り部となる
- 16 山下 義晴 兄たちと従兄弟たちとの原爆被爆
- 17 奥田 継義 被爆した日、被爆者と自覚した日、そして認められた日
- 26 梅原 康 手記 蒼白い閃光 私の被爆体験の記録
- 27 石角 敏明(被爆二世) おやじの原爆体験と私の思い
- 28 藤原 昌司(仮名) 手記 黒い雨を浴びて
- 29 今津 功 澄み切った7つの川が死者で覆い尽くされた日
- 30 中西 博 生きている人間に虫が湧く
- 31 松浦 悦枝 紙一重の差で生かされてきたことに感謝しながら
- 32 岩谷真布子 救護に当たった三姉妹の被爆体験
- 33 伊藤瑠璃子 手記 疎開先から見た燃える広島
- 34 隅田百合子(被爆二世) 父の被爆体験、母の戦争体験
- 35 米倉 慧司 何としても生き抜く…そんな父とともに